

《人間と真実の生き方》

人間は本来、神の分靈（わけみたま）であって、業生（ごうしょう）ではなく、つねに守護靈、守護神（しゅごじん）によって守られているものである。

この世のなかのすべての苦惱は、人間の過去世（かこせ）から現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である。

いかなる苦惱といえど現われれば必ず消えるものであるから、消え去るのであるという強い信念と、今からよくなるのであるという善念を起し、どんな困難のなかにあっても、自分を赦（ゆる）し人を赦し、自分を愛し人を愛す、愛と真と赦しの言行をなしつづけてゆくとともに、守護靈、守護神への感謝の心をつねに想い、世界平和の祈りを祈りつづけてゆけば、個人も人類も真（しん）の救いを体得出来るものである。